

10月9日は トラックの日



トラックは、僕らの幸せと笑顔を運んでいます。

国内輸送の約9割を担うトラック。
国民生活になくてはならない存在になったいまこそ
お客さまひとりひとりに寄り添う存在でありたいと、わたしたちは考えます。
トラックとひとの、より良い未来のため
わたしたちは今日も走り続けます。

トラックは生活と経済のライフライン

1. トラック輸送の社会的重要性

指導のねらい

「トラック輸送は我が国の経済を支え、事業用トラックはその主流である」など、トラックによる貨物輸送が「社会的な役割」を担っていることを理解させるとともに、事故を起こした場合には、社会的に重大な影響を与えることも認識させましょう。

(1) トラック輸送の社会的に重要な役割



ポイント

国内の貨物輸送の約9割は、トラック輸送が担っており、物流の主役であるといえます。物流を支える事業用トラックは、日本経済を支えているといっても過言ではなく、重要な社会的役割を担っていることを認識させましょう。

【解 説】

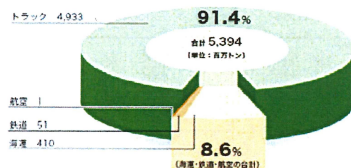
① 貨物輸送量の約9割を占める

国内貨物輸送量をトン数ベースで見ると、約9割をトラックが占めており、そのうち、輸送トンキロなどでは、事業用トラックが大きな割合を占めています。物流の主役は、まさにトラック輸送であることを認識させましょう。

② 物流を支えるトラック輸送

物流の主役である事業用トラックは、日本経済を支えているといっても過言ではありません。この点を認識し、貨物や安全・確実に輸送することを心がけさせましょう。

図 トン数の輸送機関別分担率
(H.19年度輸送トン数)



出典：「日本トラック輸送産業 2009」
(社) 全日本トラック協会

(2) トラック運転者の使命



ポイント

トラック運転者は、社会的な役割を担う貨物輸送を支える一員であることを自覚し、緊急輸送などの社会的な使命も果たしていることについても認識しましょう。

○物流を支えているという自覚を持ちましょう。

○緊急時には、緊急・救援輸送など「ライフライン」を担っていることを自覚しましょう。

Jump Hidaka.co.

日高運輸株式会社

住所：高崎市日高町 1049
TEL：027-362-1887
Mail：hidakaunyu.co.jp@
aw.wakwak.com
HP：http://hidakaunyu.com

2016年10月
No.182

子供・高齢者の交通事故防止 子供・高齢者を守る優しい運転を！

秋の全国交通安全運動の基本は「子供と高齢者の交通事故防止」でした。県警察では、1～8月末までの事故死者数は35人で対前年比減少している。このうち高齢者が17人で、12人が75歳以上だったと説明していました。昨年の事故統計では、高齢者の歩行中の事故原因の過半数が車の直前(後)の横断。子供の歩行中の原因は「とび出し」が圧倒的という状況になっています。そこで、この種事故を防止するために、運転者が守るべき交通ルールについて紹介しますの、確認して下さい。

1、横断歩行等における歩行者の優先
(1) 横断歩道等に接近する場合、その横断歩道等の直前(停止線の直前)で停止できるような速度で進行しなければならない。
(2) その進路の前方の横断歩道等を横断し、または横断しようとする歩行者等があるときは、その横断歩道等の前で一時停止し、かつ、その歩行者等の運行を妨げないようにしなければならない。
(3) 横断歩道等や、またはその手前の直前で停止している車両等がある場合、その停止している車両等の側方を通過してその前方に出ようとするときは、その前方に出る前に一時停止しなければならない。
(4) 横断歩道等およびその手前の側端から30メートル以内では、前方を進行している他の車両等(軽車を除く)の側方を通過してその前方に出てはならない。
(注) 県警察が推進している、命を救う思いやり110番通報に協力を！

一口メモ

最近、携帯電話使用中の人身事故が増加していると指摘されています。事故統計によると若者(16～29歳)による事故は31件でトップ。事故形態としては追突事故、使用形態としては画像目的使用が目立っています。”注意に注意を重ねて下さい。”



わかっているつもりで

トラックの日常点検の必要性

日常点検の必要性

事業用自動車の場合、ひとたび車両故障やそれがもとで交通事故などが起きると、社会的に大きな影響を及ぼすことがある。そのため、日常点検の実施が法律で義務づけられる。

1日の運転を安全に行うためには、運行を開始する前に車両に異状がないか確認することが必要である。

日常点検をしっかり行うことで、走行中のトラブルを未然に防止することもできるので、面倒がったり、忙しさを理由にして日常点検を怠らないようにする。

日常点検の前に

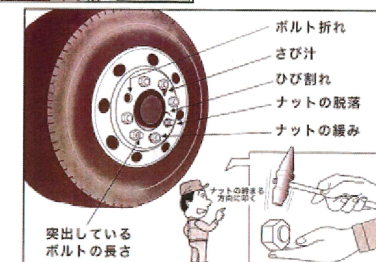
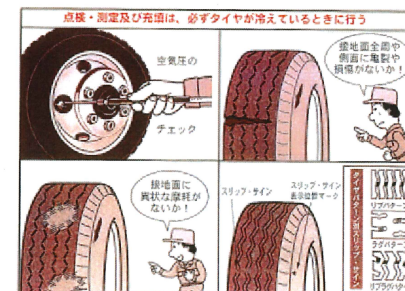
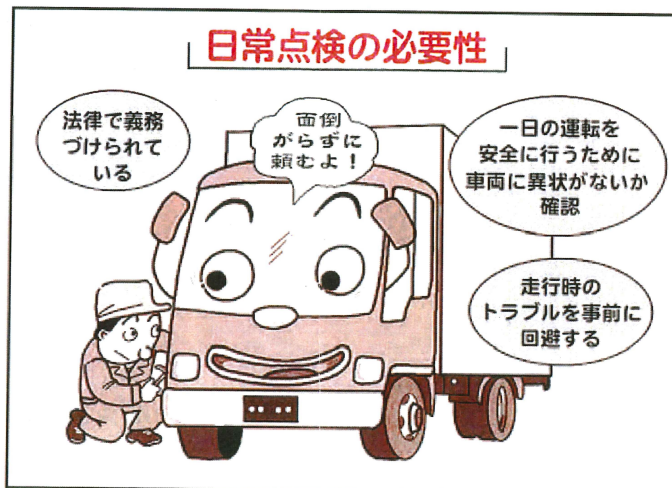
日常点検を安全でスムーズに実施するために、以下の点に注意する。

- ① 平たんな場所で行う。
- ② タイヤに輪止めをかける。
- ③ パーキング・ブレーキを確実に効かせ、ギアをニュートラルにする。
- ④ エンジン进行を止め、スターターキーを必ず抜き取る。
- ⑤ 走行直後の点検はやけどをするおそれがあるので、エンジンなどが冷えた状態で行う。
- ⑥ キャブをティルトする時は操作手順に従って行う。
- ⑦ 吸気ダクトには物を落とさないように注意する。
- ⑧ エンジンの上に乗るときは、パイプ類、エア・クリーナなどの補機類に足を掛けないようにする。
- ⑨ 点検、手入れ終了後は、エンジン・ルーム内にウェス(布)など燃えやすい物や工具などの置き忘れがないか、点検する。
- ⑩ 最後に全体を見渡して、オイル漏れ、液漏れ及び水漏れがないか、必ず点検する。

タイヤの空気圧、亀裂・損傷・異状摩擦、溝の深さをチェック

- ① 点検・測定及び充填は、必ずタイヤが冷えているときに行う。
- ② 目視でタイヤのたわみ具合や、タイヤ・ゲージでタイヤの空気圧の点検をする。空気圧が不良のときは、標準空気圧に調整する。
- ③ タイヤの接地面全周や側面に亀裂や損傷がないかを点検する。また、金属片・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかをタイヤ全周にわたり点検する。
- ④ タイヤの接地面に異状な摩耗がないかを点検する。
- ⑤ 一般道路の走行では、タイヤの摩耗限度は、残り溝の深さが1.6mmである。高速道路の走行では、タイヤの摩耗限度は、小型トラック用タイヤで残り溝の深さが2.4mm、それ以外のトラック用タイヤで残り溝の深さが3.2mmである。
- ⑥ 残り溝が1.6mmになると、タイヤのスリップ・サイン表示位置(▲位置)にスリップ・サイン(摩耗限度表示)が現れる。スリップ・サイン(摩耗限度表示)が現れた時は交換時期を示しているのので、適切なタイヤに交換する。
- ⑦ その他、スベア・タイヤについても必要に応じて点検する。

日常点検の必要性



ディスク・ホイールの取付状態(車両総重量8ト以上の大型トラックのみ)をチェック

- ① ホイール・ナットの脱落やホイール・ボルトの折損、さび汁、ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの長さの不揃いなどを目視で点検する。
- ② ホイール・ボルトの折損やホイール・ナットの緩みがないかを、点検ハンマでホイール・ナットを叩き、指に伝わる振動や音の違いに注意する。

※タイヤ交換をする場合の注意事項

ホイール・ナットの締付けは、トルク・レンチを用いるなどにより、規定トルクで締め付ける。また、タイヤ交換後は一定距離(50～100キロメートル)走行後、ホイール・ナットをトルク・レンチを用いるなどにより、規定トルクで増す締めする。

* 飯塚専務 * 《物流経営士合格!!》

～社長に続き2人目～
群馬初!!

約1年間で
170時間勉強

認定証番号: 第1610号 — 東京 第16期

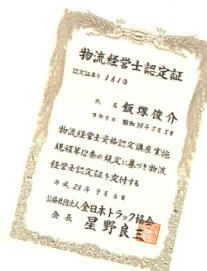
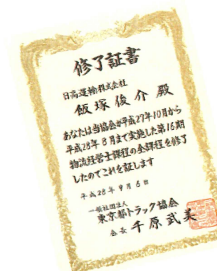
物流経営士認定証



氏名: 飯塚 俊介

上記の者は物流経営士に認定する

平成28年9月6日



今回、物流経営士研修課程に参加するに当たり、カリキュラムを見て不安からのスタートでした。正直卒業できる自信は全くありませんでした。しかし、実際に研修が始まってみると、内容は実際の業務とかけ離れた難しい内容であったものの、先生方のわかり易い講義のおかげで、日に日に知識が身についてくるのがわかりました。